

(8) 淀川河川水からのリン供給が麻痺性貝毒原因渦鞭毛藻 *Alexandrium tamarense* および珪藻 *Skeletonema* sp. の種間競合に及ぼす影響について

予算

瀬戸内海研究会議：大阪湾圏域の海域環境再生・創造に関する研究助成

結果の概要

近年の栄養塩類が枯渇した春季大阪湾の現場環境に即して、従来と比較して非常に低いリン濃度条件下で、麻痺性貝毒原因渦鞭毛藻 *Alexandrium tamarense* および競合種の珪藻類に関するリン利用能を培養実験によって調べるとともに、淀川河川に含まれるリンの質を同様の培養実験によって評価した。その結果、*A. tamarense* はリンが枯渇した環境に非常に適応していることが示された。本種のこの増殖特性は、近年の大阪湾における「貧栄養化」という新たな環境問題に上手く適応していると結論付けられた。また、琵琶湖を主な水源とする宇治川におけるリン濃度の低下は、大阪湾のリン供給の減少をもたらし、大阪湾の植物プランクトンの組成を変化させていることが示唆された。リン利用の種間比較から、淀川からのリンの供給量や供給頻度をより頻繁にすることで無害な珪藻類を卓越させ、*A. tamarense* ブルーム形成を防ぐことができる可能性が示唆された。

担当者

山本圭吾